

(様式5)

市民意見募集手続の結果について

1 計画等の案の名称 上田市立地適正化計画(案)における基本的な方針等

2 募集期間 平成30年5月16日(水曜日)から平成30年6月14日(木曜日)まで

3 実施結果

(1)件数 18件(7人)

(2)提出方法

持参	郵便	電子メール	ファクシミリ	計
11件(1人)	1件(1人)	4件(3人)	2件(2人)	18件(7人)

4 意見に対する市の考え方

【計画案を修正・追加する】

No.	意見区分	意見の概要(要旨)	市の考え方
1	2 立地適正化計画の概要	・計画書3ページ、<都市づくりの課題>の文章中、「『コンパクト・プラス・ネットワーク』の考えでまちづくりを進めていくことが求められています。」とある箇所を、「『コンパクト・プラス・ネットワーク』(集約型都市構造)の考えで、人口規模に見合ったまちづくりを進めていくことがもとめられています。」とするのはどうか。	御意見いただいたとおり、<都市づくりの課題>の文章中へ、「(集約型都市構造)」、「人口規模に見合った」の追記を検討いたします。
2	2 立地適正化計画の概要	・計画書4ページ、(3)計画の特徴②届出制度の囲みの中に、「従来の都市計画マスタープランによる土地利用計画に加えて、届出・勧告という緩やかなコントロール法により、時間をかけながら一定区域を誘導することを目指します。」と追記するのはどうか。	御意見いただいた箇所では、概要として簡潔に述べる必要があると考えているため、今後届出制について詳細に説明する箇所において、届出制度の目的等の記載を検討いたします。
3	その他	・届出制度について、計画書に記載するとともに、届出の手引きの作成など住民への周知が必要ではないか。	御意見のとおり、計画書において届出制度について記載するとともに、市民のみならず及び市内事業者のみなさんへの周知が図れるよう検討いたします。

【計画案に盛り込まれており、計画案を修正しない】

4	2 立地適正化計画の概要	<p>・計画書 3 ページ、2-2 計画概要 (1)立地適正化計画とは の文章中、「包括的なマスタープラン」とある箇所を、「包括的なマスタープラン(公共交通、市街地活性化、産業振興、雇用確保、子育て環境、生活環境、防災、地域コミュニティ、地域包括体制)」とするのはどうか。</p>	<p>御意見いただいた箇所の前述で「居住機能や医療・福祉・商業等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関する」としており、御意見の内容を含めた記載と考えていることから、記載のとおりとさせていただきます。</p>
5	6 基本方針	<p>・計画書 42 ページ、目標3「安全・快適に暮らせる都市」づくりの説明文に「健幸都市上田を目指し、市民の健康づくり、社会参加を推し進め、市民が健康で安心して住みやすい町づくりに取り組みます。※スマートウェルネスシティ首長研究会、全国 72 自治体のひとつに加わり、スマートウェルネスシティ上田を目指しています。」と追記するのはどうか。</p>	<p>「上田市立地適正化計画」は、上田市が目指す将来都市像「ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる健幸都市」を掲げる「第二次上田市総合計画」を、上位計画としており、同計画に記される「拠点集約型都市構造による持続可能な“まちづくり”」を進めるための計画です。</p> <p>したがって、「上田市立地適正化計画」の策定には「健幸都市うえだ」を目指す考えが根幹にあるので、基本方針については、記載のとおりとさせていただきます。</p>
6	7 都市機能誘導区域	<p>・概要版 9 ページ、6.誘導区域の設定、「6-1.都市機能誘導区域設定の考え方」を「6-1.都市機能誘導区域(周辺からの交通アクセス性、都市機能の集積状況を勘案し、都市全体における各種生活サービス施設(医療、福祉、商業等)の効率的な提供拠点を目指す区域)設定の考え方」と記載することにより理解しやすくなると思う。</p>	<p>計画書の該当箇所(61 ページ、7 都市機能誘導区域)において、区域について説明をしていることと、概要版ではできる限り簡潔に表記する必要があるため、記載のとおりとさせていただきます。</p>
7	全体	<p>・市の中心部だけに拠点が形成されると、郊外の過疎化が予想される。交通、生活、健康維持、高齢化問題等、郊外の居住者も不便なく生活できるようにしてほしい。</p>	<p>上田市が目指す「コンパクトシティ」とは、中心拠点一極に人口や都市機能施設の集約を図るものではなく、複数の拠点が交通ネットワークで結ばれた「多極型ネットワーク+拠点集約型都市構造」への転換を目指すものです。</p> <p>上田市は、上田・丸子の中心市街地、そして郊外にあるそれぞれの地域が、公共交通網や幹線道路等のネットワークで結ばれており、現状において良好なバランスが保たれています。</p> <p>しかしながら、今後人口減少が進む中、中心市街地にある都市機能を持続するには、周囲の「衛星」となる、各地域が同様に持続していく必要があると考えています。そ</p>

			<p>のため、真田、武石、豊殿、塩田、川西の各地域に「生活複合拠点」を位置づけ、それぞれの地域の実状に沿った施策を施し、地域拠点とその周辺地域の生活の質の維持を図りたいと考えています</p> <p>この、中心拠点と各地域拠点の、「多極的なコンパクト化」は、上田市独自の考え方であり、コンパクト化した各拠点間を、公共交通や幹線道路網のネットワークで結び、中心拠点と地域拠点が相互に共存する、良好な位置関係の継続を図りたいと考えています。</p>
--	--	--	---

【計画案を修正しないが、今後、参考・検討とする】

8	2 立地適正化計画の概要	<p>・計画書 4 ページ、(4)計画で定める区域のイメージの図において、左上の囲みの中、「立地適正化計画の区域＝都市計画区域」を「立地適正化計画は、原則として都市計画区域の全体」とするのはどうか。</p>	<p>計画書 41 ページにおいて計画区域を説明しており、本ページのイメージ図では模式的に表現することを目的としていますが、分かりやすさを加えるため、記載の文言について再度検討いたします。</p>
9	6 基本方針	<p>・計画書 42 ページ、目標 2 「人々の交流を育む都市」づくりを「人の姿がみえる都市」づくりとするのはどうか。</p>	<p>本計画は、上田市都市計画マスタープランを上位計画とし、基本方針についても上位計画と整合を図り設定していますので、目標 2 につきましては、記載のとおりとさせていただきます。</p>
10	9 居住誘導区域	<p>・概要版 9 ページ、6.誘導区域の設定、「6-2.居住誘導区域設定の考え方」を「6-2.居住誘導区域（人口減少の中にあっても一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう居住を誘導すべき区域）設定の考え方」と記載することにより理解しやすくなると思う。</p>	<p>計画書の該当箇所(70ページ、9 居住誘導区域)において、区域について説明をしていることと、概要版ではできる限り簡潔に表記する必要があるため、記載のとおりとさせていただきます。</p>
11	10 誘導施策	<p>・居住誘導区域外であっても居住者が今後も安心して生活できる環境整備を進めてほしい。</p>	<p>人口が減少しても、その地域に暮らす市民がいる限り、道路や水路等のインフラや、下水や水道等のライフラインの維持等、行政が行っているサービスは、行政の責務として全市域平等に継続して行われ、当然のことながら居住誘導区域外であってもそれは同様に行われるものと考えています。</p>
12	全体	<p>・将来ビジョンについては、若者の意見が大切と考えるので、計画書の見直し時には、高校生等</p>	<p>見直し時の社会情勢等を勘案し、高校生等地域の学生との意見交換の場や、そのような機会を設け、見直す計画に反映できるよ</p>

		の意見交換の場や機会を設けるのはどうか。	う検討いたします。
--	--	----------------------	-----------

【検討の結果、計画案に反映しない】

13	6 基本方針	・概要版 7 ページ、5-1. 拠点設定の考え方、5 行目「多極的な観点から」を「多極的な(多極ネットワーク型コンパクトシティ)の観点から」と追記するのはどうか。	前文からの流れを考慮し、計画書 47 ページ、6-3-2 拠点設定の基本的な考え方、3 行目「そのため、市内全域を対象にそれぞれの拠点を位置付け、多面的な観点から一体的かつ持続可能な拠点の形成を図ります。」の文に該当箇所を変更します。
14	7 都市機能誘導区域	・都市機能誘導区域の設定において、長瀬市民センター周辺を指定していただきたい。	丸子地域の中心市街地には、丸子地域自治センター、丸子文化会館、丸子ベルシティ内の各施設、丸子修学館高校等、丸子地域の市民はもとより、武石地域を含む依田窪地域の多くの人々が利用する都市機能施設が集積しており、依田窪地域全体の生活利便性を支える拠点であると考えています。 一方、長瀬市民センター周辺は、地元にお住まいの皆さんにとって大切な生活サービス施設が立地している地区の拠点といえます。 そのため、丸子都市機能誘導区域は記載のとおりとさせていただきます。
15	9 居住誘導区域	・居住誘導区域の設定において、居住系の用途地域が設定されている地域を居住誘導区域に含めていただきたい。 (常入地区、長瀬地域)	居住誘導区域の設定にあたっては、国が示す策定手引きにより、定量的に設定しています。設定手順の中で、居住誘導区域は目標とする年次(概ね 20 年後)においても一定程度の人口密度を保つことが可能とされる区域であることとされており、目標年次における評価の目標値に設定されます。 定量的に検討し、実現性のある計画とするため、記載のとおりとさせていただきます。
16	全体	・中心拠点到一極集中させるコンパクトシティ構想ではなく、郊外居住でも便利に暮らせるよう公共交通等の対策でよいのではないかと。	これまでの交通施策は、公共交通空白地域や不便地域の解消に重点を置いているため、人口分布が拡散すると、市内の交通網も比較的拡散したものとなってしまいます。したがって、公共交通等の対策のみでは非効率な都市構造のままとなり、人口減少社会における効率的な自治体経営が厳しい状況になると予想できます。 上田市が目指す「コンパクトシティ」とは、中心拠点到人口や都市機能施設を一極集中するものではなく、郊外においても複数の地域の拠点を形成し、拠点間を公共交通ネットワークで充実させる「多極型ネットワーク

			+拠点集約型都市構造」であり、人口減少社会において持続可能な自治体経営実現のためには、この都市構造への転換が重要であると考えています。
--	--	--	---

※類似の意見はまとめて回答しているため、提出件数と一致しない場合があります。